

故畦地幸孝さんに叙位 従六位授与

元十和村社会教育委員長で今年の5月に逝去された故畦地幸孝氏の叙位伝達式が7月11日に四万十町役場で行われました。

このたび従六位に叙された畦地氏は、昭和22年に教職に就かれ、以来39年間の長きにわたり教育振興に貢献をされるとともに、退職後は十和村社会教育委員長などの重職を歴任されました。

こうした多年にわたる功績が認められ、平成13年11月3日には、勲五等瑞宝章を受章されています。

伝達式には、遺族の畦地桂子氏と寿孝氏が出席し、中尾町長から位記が手渡されました。

また、奥様の畦地桂子氏から四万十町の振興に役立ててほしいと寄付をいただきました。ご厚意に対し厚くお礼申し上げます。



流燈や一つにはかにさかのぼる 飯田蛇笏

お盆の行事の一つで、小さな灯籠に火を点じて、お盆のお供え物などと一緒に河川や海に流す風習で、広島原爆被爆者を含めた戦災殉難者を慰霊するピースメッセージという流し（広島県）などが知られています。お盆に家々に迎えた先祖が灯籠に乗って川を下り、海のかなたのあの世へ帰っていくという信仰に基づいています。そもそものは、川施餓鬼と呼ばれる水害でなくなった故人の霊を弔うための供養から始まったとも言われています。全ての地域が水のそばに位置しているわけではなく、河口や湖・海に臨んだ地方に多くみられますが、夏の水迎行事ということから納涼・観光行事になったものもあります。

しかし、近年は海や川の汚染が問題になって、灯籠をそのまま海に流すことは昔に比べると少なくなっています。灯籠流しを禁止する自治体では、川の下流で灯籠を回収したり、河川敷や海岸に集め、それらを公民館などで供養をあげるなどの工夫をしているそうです。

四万十町では、毎年8月14日の「四万十川まつり」で花火大会の後、灯籠流しを開催しています。ぜひ、ご覧ください。



季節の風景 8月

灯籠流し

平成29年 春の叙勲を受章



瑞宝双光章 (更生保護功労)

すがはら あきよし
菅原 明良 (東川角・71歳)

菅原さんは、昭和56年から37年間「更生保護」の中心となる「保護観察」や「生活環境調整」など、保護司という法務省からの委嘱を受けた民間ボランティアとして、人の立ち直りや社会復帰活動を支える活動に尽力された功績を称えられ今回受章されました。

社会福祉協議会に在職中、社会を明るくする運動や子ども会ソフトボール大会などに携わり、周囲からの勧めもあって保護司を目指されました。

退職後も高幡保護司会の保護司として様々な活動をされながら、早朝から街頭に立ち交通安全指導員としてもご活躍されています。



瑞宝単光章 (消防功労)

いちかわ はるのり
市川 春則 (魚ノ川・75歳)
元高幡消防組合四万十消防団 副団長

市川さんは、昭和54年から仁井田第2分団に入団し36年間の長きにわたり、地域の安全・防災に尽力した功績を称えられ今回受章されました。

24歳の時に家業を継ぐため高知に戻られ、周囲からの勧めで兼業農家をしながら影野地区の消防団に入団されました。中でも四万十町で昭和38年の台風9号以来の大水害となった、平成16年10月の台風23号で増水した河川での救助活動が最も印象に残っていると話されていました。

退団後はお孫さんたちに囲まれ、趣味の釣りを楽しみながら元気に農業を続けられています。

今月の



憲に顔をくつつけて
お箏を聞いていた光代ちゃん！



▲土曜日学校では池田さんのお弟子さんたちが大活躍

窪川小学校「土曜日学校」の先生その二。今回は「箏」の先生、池田光代さんです。池田さんは旧窪川町役場の元職員で、この四万十町通信の「先祖」にあたる町の広報誌の制作をされておられました。当時は企画・取材・撮影・原稿作成・レイアウト・校正のすべてをひとりで担当していたそうです。

ちょうどその頃、池田さんの子どもの頃からの箏の師匠が県外へ引越すことになり、後継を任せられました。池田さんが25歳の時です。「当時、師匠

のもとには、私の他にもお弟子さんが数人いらっしゃって、私が後進の指導なんて無謀だと思いましたが。広報の仕事も大変忙しかったこともありましたが、というところで、ご家族の理解と、箏を習いにきてくれる方たちに支えられ、なんとかやっていったのだとか。また、師匠が引越されてから、自分自身のお稽古のために高知市内の先生の所へも通い続けました。

そもそも、池田さんが箏を始められたのは小学3年生の時。学校の入り口付近にあるお宅から箏の音色が流れてきていたのが気になって気になつて「光代ちゃん」は、いつもそのお宅の窓に顔をくつつけて聞いていました。おかあさんに「習いたい」とせがんだのですが、

当時は経済的な余裕もなく、その思いは叶わなかったと思われ

たある日のこと、いつものように顔をくつつけて聞いていた光代ちゃんを、先生はやさしく招き入れてくれたのです。そしていつの間にか爪まで作ってもらい、お稽古をさせてもらうようになったのだそうです。さて、現在は、学期に二回の土曜日学校以外にも、ご自宅で子どもたちに教えておられます。「お箏クラブ・虹」といいます。土曜日学校で教えていた子どもさんが「もつと弾きたい」と言ってくれたことから始まったそうです。

ところで皆さんは「箏」と「琴」の違いをご存知でしょうか？「箏」と「琴」は別の楽器で「柱」と呼ばれる可動式の支柱で音程を調節するのが「箏」で、対して、柱が無く、指で弦を押さえて音程を調節するのが「琴」です。



いけだ みつよ
池田 光代さん
(茂串町)